

平成22年（1月～3月）における火災の概要（概数）

前年同期と比較すると、総出火件数が減少するとともに、建物火災、車両火災、林野火災、船舶火災、航空機火災、その他の火災においても件数は、減少しております。
また、火災による死者数も減少しています。

①総出火件数は、12,834件、前年同期より1,332件の減少

総出火件数は、12,834件で、前年同期より1,332件減少（-9.4%）しています。火災種別で見ると、建物火災が407件減少、車両火災が94件減少、林野火災が73件減少、船舶火災が3件減少、航空機火災が1件減少、その他火災が754件減少しています。

②総死者数は、658人、前年同期より48人の減少

火災による総死者数は、658人で、前年同期より48人減少（-6.8%）しています。負傷者は、2,239人で、前年同期より116人減少（-4.9%）しています。

③住宅火災による死者（放火自殺者等を除く。）数は、400人、前年同期より35人の減少

住宅火災による死者（放火自殺者等を除く。）数は、400人で、前年同期より35人減少（-8.0%）しています。このうち65歳以上の高齢者は、257人で、前年同期より19人減少（-6.9%）していますが、住宅火災による死者（放火自殺者等を除く。）数の64.3%を占めています。

④出火原因の第1位は、「放火」、第2位は、「こんろ」

総出火件数12,834件を出火原因別にみると、「放火」1,495件（11.6%）、「こんろ」1,220件（9.5%）、「たばこ」1,183件（9.2%）、「放火の疑い」1,091件（8.5%）、「ストーブ」777件（6.1%）の順となっています。

また、「放火」及び「放火の疑い」を合わせると2,586件（20.1%）となっています。

[▲ このページの上に戻る](#)

目次

[1.住宅用火災警報器の普及状況の推計結果 —総務省消防庁](#)

[2.平成22年（1月～3月）における火災の概要 —総務省消防庁](#)

[3.「救急の日」及び「救急医療週間」の実施](#)

[4.住警器共同購入等の事例紹介 ～第2回～](#)

[5.「防災フェア2010」が東京タワーで開催されました](#)

[6.【幼少年活動】愛知県消防学校一日入校ほか〔小山、雲南、富山、網走、射水〕](#)

[7.【婦防活動】気仙沼本吉地区「防火のつどい」開催ほか〔岐阜〕](#)